

改題

土楽たより

どうらく

Kogure 農場 4月号 (NO24)

2012年4月10日 (火) 発行

【農暦】台風並みの春の嵐が吹く

○春の嵐が来る。台風並みの風が吹く。桜の時期は荒れる事が多いが春の嵐と云ってもこれ程に激しい事はない。台風も年々激しくなっているが海水温が高くなって来ていることに起因していると云う。今回の大風は、温暖化？による北極圏の気団の変化でジェット気流の流れが変わった事に起因してしると云う。震災も大変であるが温暖化による気候が更に激しさを増すとすると比較の問題ではないが震災の比ではない恐ろしいものがある。この春の嵐を避け4日に笠間へ行った。鉄製のテーブルと椅子、サザンカの大きな鉢が倒され飛んでいるなど荒れている。畑の先に目をやると農業用ハウスが大破して景色が変わって見えた。



< 柏の大堀川の辺 29日 > オイヌノフグリが群生。桜並木のつぼみが一段と膨らんでいた。散歩の足が心持良い。

○今のものは修理して使い始めた矢先に春の大風で大破し一昨年に新しく張り替えたものである。耐用年数にはなっていない。震災で被災された人とは比較にならないがトラクターの車庫のシート大破を含めると3度でも少しばかり落ち込んだ気分になった。気を取り直して発芽直前の苗の急場凌ぎの霜対策をする。翌日の5日、水戸のKYさんの応援を得て暫定のトンネルを作り、苗を移し入れる。またハウスの張替シートを手配したりする。入荷を待って来週には張り替えが出来るようにと破損シート取り外しや処分などをする。マイナス作業は思いの外に疲れる。



< 春の嵐でハウスが大破4日 > 爆弾低気圧で笠間に戻って見るとこの惨状で5日に苗の暫定対策を行った。

○この1-2年は作業遅れの後手続きで散々な思いを多くしており、今年は作付縮小など考えながら反省の意を込めて周辺整備など続けて来たところ

であった。出鼻を挫かれたような嫌な予感の出来事が起きたと気弱になっている。今桜がまさに咲き始めている。美しい桜で気弱なものが昇華される様な気がする。花冷えの言葉があるように桜の時季は気候が荒れる。桜はめげることなく毎年美しく花開く。桜を愛で

ながら、自然の厳しさを受け入れながら農との関わり合いを楽しみたいと思う。桜に美酒と佳き仲間と、多くを望んではいけない。桜に敬意を表し、農作業の続きを始めたいと思う。

【楽農】 トマトなどの播種など

<ハウス> ; トマト、茄子、万願寺シシトウなど播種。

ヤーコンのポットへの植込み。

<畑 A> ; 周辺の篠竹などの刈り取りと焼却を継続実施。ネギの植え替え。

<畑 B> ; トラクターで耕起とジャガイモの植込み、



<ピッコロファーム・楽農楽市の作業>
共同圃場の苗作りとヤーコンなどの苗の仕込み作業を行う。19日。
このハウスが大破し覆いがなくなった。

【楽市】 イベント交流・直売など

○グリーンジム本戸倶楽部（3月19日）

共同圃場のイタリアントマトや茄子、万願寺シシトウなど苗作りの播種とヤーコンのポットへの植込み作業を行う。懇親会は、「現代農業」の記事の栽培方法のあれこれの話題が続き、いつもながら楽しい時間になった。次回は4月18日

*グリーンジム本戸倶楽部はピッコロファーム・楽農楽市の活動して行う事にしています。
ご参加下さい。

*いきいき市場に出店（18日）は陽気や天候もあつてか、今回も今一つであった。

【つぶやき=Tweet】 世帯人数が1,99人に

○最近、年金世代の人から話かけられる事が多い。コミニターが上手く機能していないのか会話に飢えているのか戸惑う事がある。こんな事があると、私も、いろいろな会に参加するのは寂しいからなのかと自問したい気分になる。そんな時に、東京都の世帯人数が2人を割り1,99人になった。危機ゾーンを超えたと言った石原知事がテレビで話していた。孤独死のニュースが続いた後で確かに危機ゾーンに入ったと思った。単身世帯が半数を確実に超えたのである。テレビに向かって話をする人がいると云う話は聞いた事があるが、孤独の話に繋げては聞かなかった。

○今更ながらではあるがコミニター（まちづくり）作りは大事なテーマである。震災があ



<アクアワールド大洗水族館1日>
春休みの孫娘と行く。写真は孫娘。客減少と電気料値上げで大変と2日のニュースで館長が話していた。

ったからでもなく、本来人間は孤ではない存在であった筈である。コミュニティー作りにはいろいろなものが含まれている。まちづくり作りをテーマに取り組むのも大事であるが、まずは、日々の生活の中で育む事も大事であると思う。

○こんなニュースを聞いた時だったからなのか、本の書評を読んで気になったので買って読んでいる本がある。今の人は知らないと思うが私より上の世代？で流行った“デカンショ、デカンショで半年暮らす。後の半年は寝て暮らす。”の大学生の生活を自虐的に皮肉った流行り歌である。口ずさんだ記憶がある。デカンショとは思想・哲学者のデカルト、カント、ショペンハウアーであったと思うが、その中のショペンハウアー（ドイツの哲学者）の訳本で「幸福について（人生論）」*である。利得主義や閉塞感が覆う世相にあって求める人が多いのか、今年の3月15日に49回（刷）目が刷られている。読む人が多いのは嬉しいような心強い様な気がする。一文を引用する。“平民も奴隷も征服者も 本音を吐かせりや、昔も今も、人と生れて最大の幸福は 人柄に帰すると言っている。”と交流のあったゲーテの詩を本の中で引用している。1841年に書かれた本であるが使われている表現は古いが内容的には今日に通底しているようで興味深く読み進んでいる。人間は余り変わらないし変わらないのかも知れない。

○もやもやしたものがチョットだけ整理される様な気分になれる。立ち止りゆったり物思いにふける時間を持つのも良いものだと思う。この種の本では読み易いので一読を進めた。毎日サンデーになって久しいが何か忙しいものがあるのである。

*「幸福について（人生論）」新潮文庫550円原題；随筆「処世術箴言」の全訳

*3月の低温もあつてかここへ来て、春が急ぎ足で走りだしたようで1日1日の変化が速い。蕾だった桜も間もなく満開。取り残したフキノトウは花開き満開(?)。オイヌノフグリのブルーの群生は美しく春全開の感がある。芽吹きの上も上がる。山々の変化も楽しみである。笠間に、kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】



＜筑波山の女体山山頂にて25日＞
谷川岳山行に向け足慣らしも兼ね筑波山へ岩場もあり、なかなかのコース。同行頂いた美人の山仲間の2人。

発行者；Kogure農場・小暮
住所；笠間市本戸4201-10
携帯電話；090-9333-4135
メール；torao-k@nifty.ne.jp
HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>